

鉋害防止の取組について

令和8年5月28日

関東東北産業保安監督部東北支部

1. 令和7年度監督指導（鉱害関係）の実施状況

(1) 立入検査の件数

- 令和7年度実施した鉱害関連の立入検査は、坑廃水検査:6件、鉱煙検査:1件、集積場検査:6件、石油坑井検査:1件の合計14件。法第39条命令調査：1件
- 全体的に検査件数を縮小。熊・地震の影響で中止したものあり

令和7年度立入検査（鉱害関係）の実施状況

(件数)

鉱種別	鉱害等検査			その他検査		特別検査	合計
	坑廃水	鉱煙	騒音・振動	集積場	石油坑井 他		
金属	4 (17)	1 (2)	0 (0)	6 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (23)
非金属	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
石灰石	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (7)	0 (1)	0 (0)	2 (10)
石油・天然ガス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)
石炭・亜炭	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	6 (19)	1 (2)	0 (0)	6 (11)	1 (2)	0 (0)	14 (34)

注：（ ）内は、令和6年度実績

➤ 立入検査の種別

鉱山保安監督規程（内規）に基づき実施する立入検査、特別検査及び調査は次のとおり

保安検査 鉱山の自主保安体制（監査、法令適合性）を確認する検査

鉱害等検査 基準適合性（数値基準）を確認する検査

その他検査 リスクが高い施設の保守管理状況等の確認や休止鉱山等に対する検査

特別検査 災害・鉱害事故等の発生報告を受け実施する検査

法第39条命令調査 鉱業権消滅後5年以内に法第39条第1項の命令発動の可否を判断するための調査

1. 令和7年度監督指導（鉱害関係）の実施状況

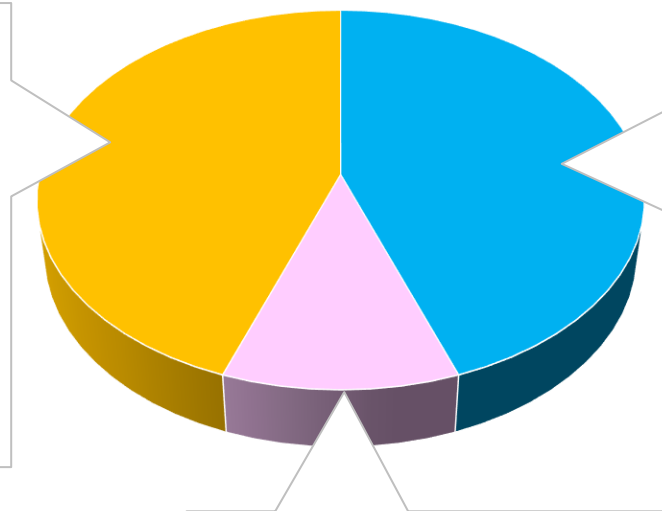
(2) 立入検査における指摘

- 令和7年度の立入検査（鉱害関係）では、検査概要により18件の不備・改善等を指摘
- 集積場の排水路、山腹水路等の維持管理に関する指摘は毎年あり。近年、局地的な大雨等の発生リスクが高まる中、集積場の通水能力の確保は非常に重要
- 工事計画の未届、使用前検査の未実施及び使用開始届の未提出等も認められ、法令に則った手続きについて、一層の理解が必要

令和7年度立入検査（鉱害関係）における指摘

集積場検査 8件 44%

- ・集積場の維持管理（排水路 他）3件
- ・工事計画届未提出 2件
- ・技術基準抵触 1件
（安定度 防護施設の設置）
- ・亀裂箇所の追跡対応 1件
- ・ズリ流出防止対策不十分 1件



坑廃水検査 8件 44%

- ・使用前検査未実施 1件
- ・使用開始届未提出 1件
- ・pH計の校正等の規定なし 1件
- ・排水の測定方法の規定、記録なし 1件
- ・保安規程未遵守 1件
- ・事故対応不十分 1件
- ・巡視・点検不十分 1件

石油坑井検査 2件 12%

- ・石油坑井の廃坑促進 1件
- ・鉱業廃棄物の処理 1件

1. 令和7年度監督指導（鉱害関係）の実施状況

(3) 立入検査における指摘事例（集積場）



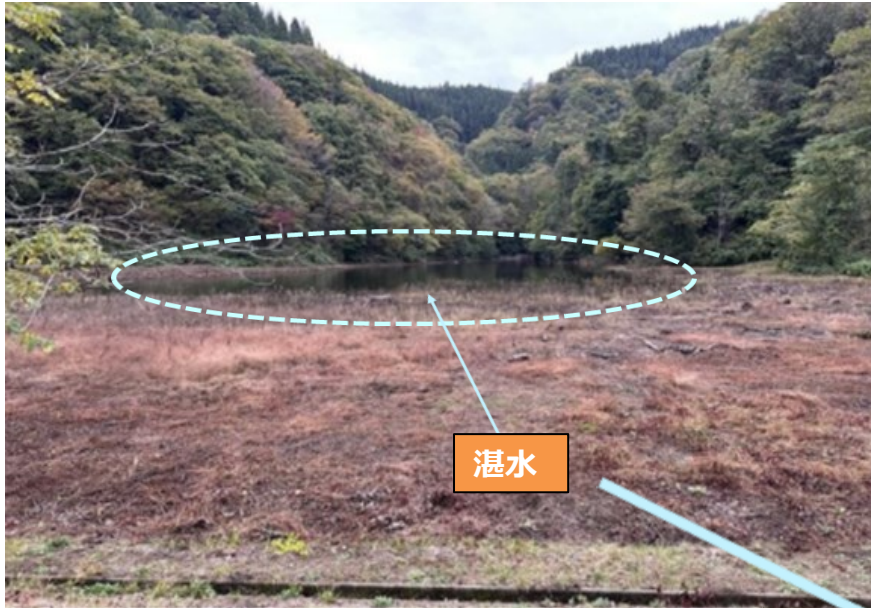
【山腹水路等の維持管理】
（倒木が放置により落下し、水路塞ぐ恐れあり）



【山腹水路等の維持管理】
（水路の水抜孔に樹木育成。水路コンクリート部亀裂恐れあり）

1. 令和7年度監督指導（鉱害関係）の実施状況

（3）立入検査における指摘事例（集積場）

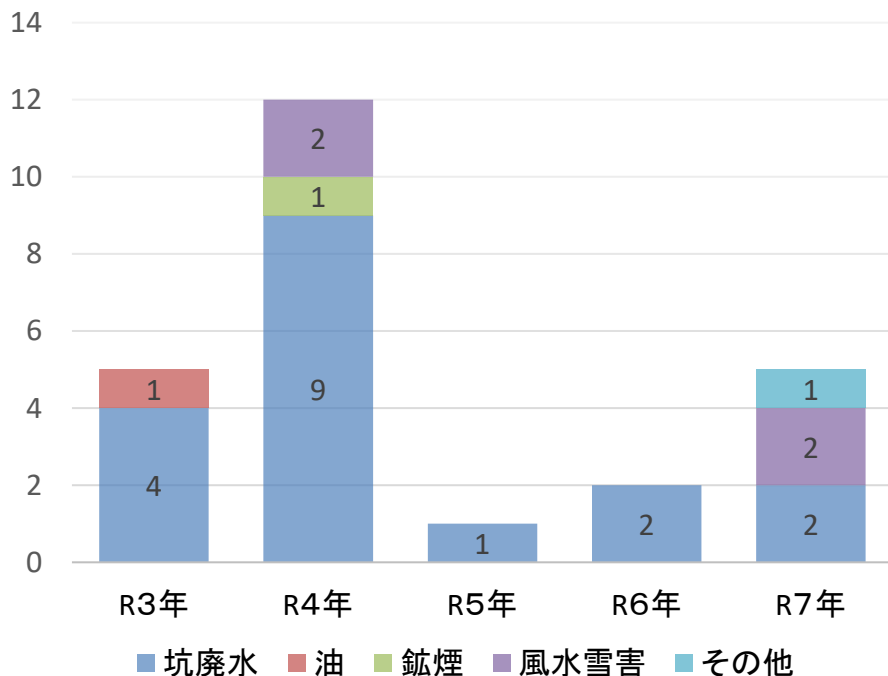


【上澄水の排除】
（豪雨により竖樋が閉塞し、湛水が発生。
通水機能の回復必要）

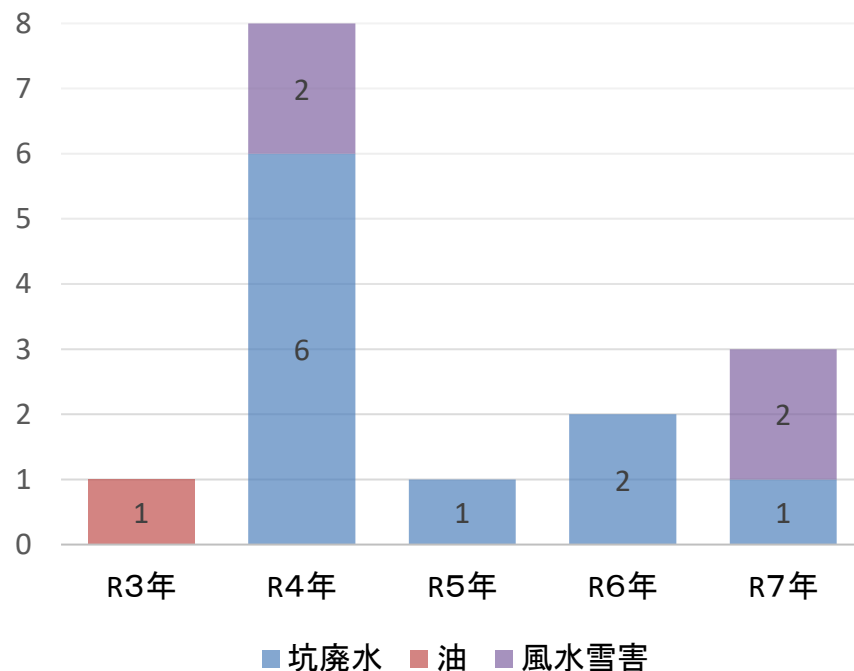
2. 令和7年鉱害関連の災害・事故発生状況（全国、東北）

- 全国における令和3年から令和7年までの5年間の鉱害関連の災害・事故は25件発生
内訳は、坑廃水の排水基準超過18件、油の排出1件、鉱煙の排出基準超過1件、風水雪害による排水基準超過4件、その他として殿物流出1件
- 東北管内の同5年間の鉱害関連の災害・事故は15件発生。内訳は、坑廃水の排水基準超過10件、油の排出1件、風水雪害による排水基準超過4件
- 過去5年間に全国で発生した鉱害関連の災害・事故の6割が東北管内での発生によるもの

鉱害関連災害・事故発生件数（全国）



鉱害関連災害・事故発生件数（東北）



注：発生件数には鉱山保安法に基づく報告災害のほか（公財）資源環境センター移管鉱山及び法第39条命令鉱山に係る鉱害事案を含む

2. 令和7年鉱害関連の災害・事故発生状況（東北管内における事例）

- 令和7年における鉱害関連の災害・事故の発生は3件
- うち2件は自然災害による排水基準超過事案。天気予報等で悪天候が予想される時は、災害発生があり得ることを念頭に監視体制強化を！

発生月日	所在地	操業状況 (鉱種)	事案の概要
8月20日	秋田県	休止 (金属)	<p>災害発生当日、当該地域は24時間雨量が観測史上最高の記録的な大雨となった。</p> <p>事業者は坑水処理場の処理原水量を遠隔監視していたところ、20時頃に処理原水量が減少しているのを確認した。</p> <p>明朝から現場巡視を実施したところ、処理水導水管のジョイント部が外れ、未処理水が沢に流出していることを確認した。</p> <p>なお、鉱害の発生（魚の斃死等）は確認されていない。</p> <p>【原因】</p> <p>沢水が増水し、林道の路肩が沢水で削られ崩落し、路肩に埋設していた処理水導管が露出。露出した導管のジョイント部に流木等が当たり、ジョイント部が破損し外れ、未処理水が沢に流出したものと推定。</p>



破損箇所

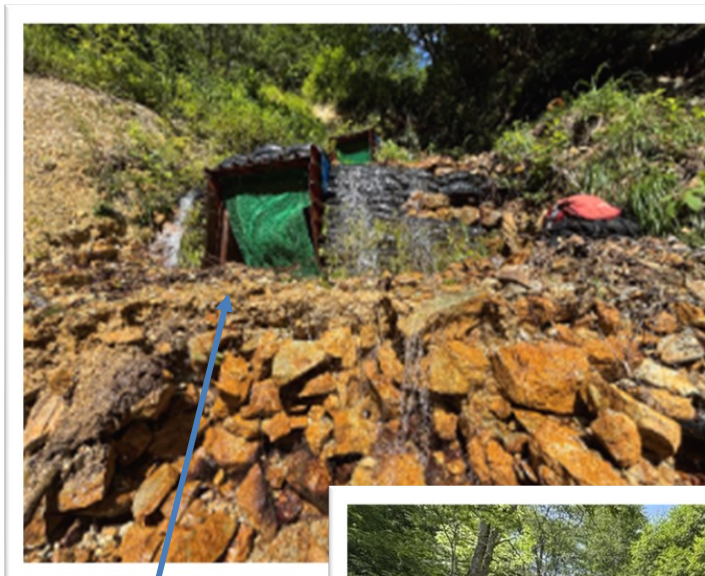


復旧後

2. 令和7年鉱害関連の災害・事故発生状況（東北管内における事例）

- 令和7年における鉱害関連の災害・事故の発生は3件
- うち2件は自然災害による排水基準超過事案。天気予報等で悪天候が予想される時は、災害発生があり得ることを念頭に監視体制強化を！

発生月日	所在地	操業状況(鉱種)	事案の概要
8月22日	秋田県	休止(金属)	<p>8月20日から続いた大雨の影響を確認するため22日に現場巡視を実施したところ、坑水の集水枡から坑水（周辺流水を含む）が溢れ出て、近くの沢に流出していることを確認した。</p> <p>なお、鉱害の発生（魚の斃死等）は確認されていない。</p> <p>【原因】 大雨により集水枡に通常の水以外の水が流入し集水枡で処理しきれなくなり、未処理水が沢に流出したものと推定。</p>



集水枡



沢水増水

3. 休廃止鉱山に対する補助事業（全国）

休廃止鉱山鉱害防止等工事費補助事業

令和8年度予算（案） 22億円（22億円）

産業保安・安全グループ
鉱山・火薬類監理官付

事業目的・概要

事業目的

金属鉱山等からは、採掘終了後においてもカドミウム、鉛、ヒ素といった重金属等を含む坑廃水が排出される場合があり、河川の水質汚濁による鉱害を防止するため、必要な坑廃水処理を継続する必要がある。

このため、金属鉱業等鉱害対策特別措置法に基づく基本方針（第6次：令和5年度～令和14年度）の下、地方公共団体等が行う坑廃水処理に要する経費の一部を補助することにより、費用負担の適正化を図り、もって休廃止鉱山に係る鉱害の防止を図る。

事業概要

休廃止鉱山において鉱害防止事業を実施している地方公共団体等に対して、坑廃水処理に要する費用の3/4を補助する。

事業スキーム（対象者、対象行為、補助率等）



成果目標・事業期間

昭和46年から令和14年までの事業であり、坑廃水処理事業を実施した鉱山のうち、年間の排出基準等管理基準を超過した坑廃水排出事故件数を0にすることを旨とする。

3. 休廃止鉱山に対する補助事業（東北）

令和7年度補助金交付実績額（約18億円）

※令和7年度当初、令和6年度補正、令和5年度補正（繰越）

（単位：千円）

		事業数	不存在	事業数	存在
			決定額		決定額
一般会計	鉱害防止工事	7	148,819	—	—
	坑廃水処理	14	1,164,118	22	395,584
	危害防止工事	—	—	—	—
特別会計	エネルギー使用合理化	1	31,473	—	—
	(参考)				
	廃止石油坑井封鎖事業	3	84,444	—	—

全国の休廃止鉱山に係る補助金（約29億円）の約6割（約17億円）が東北管内で使用されている。